

豊 矢巾町

防災マップ

安全で安心なまちづくり



町民のみなさまへ

みなさん一人ひとりが防災の主役

災害への備えは大丈夫でしょうか。近年日本各地で大きな災害が発生しています。本町でも平成23年の東日本大震災、平成25年8月の集中豪雨などにより大きな被害が発生し、私達に多くの教訓をもたらしました。

そこで、町では、町内における危険箇所や避難場所、防災情報等を掲載した「防災マップ」を更新しました。

突然やってくる災害から皆さんの安全を守るため、町では防災対策の充実に努めているところですが、被害を最小限に食い止めるには家庭での日頃からの防災対策が最も重要です。

ご家庭の目に付くところにこのマップを備えて、皆さんで防災についてお話しをされるなどご活用ください。

矢 巾 町

索

町民のみなさまへ・索引	1
避難情報について、避難勧告(指示)について	2
風水害対策(1)	3
風水害対策(2)	4
洪水ハザード情報について	5
大雨のときの行動ガイド、避難時の注意点	6
地震対策	7

引

わが家の防災対策&チェック	8
非常時持出品の準備&チェック	9
わが家の「防災・緊急情報」メモ	10
指定避難所一覧	11
指定緊急避難場所、福祉避難所一覧	12
矢巾町 全体図	13・14
矢巾町 防災マップ 1~10図	15~34

避難情報について

避難情報の違いを知っておきましょう

広報車・防災無線・サイレン等を通して市区町村が出す避難情報には、状況によって違いがあります。

情報の種類	発令時の状況	住民に求める行動
自主避難	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の危険が迫っていると自ら判断した場合の避難となります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて地域の公民館などに避難してください。 ● 避難中の食事や生活必需品はご自分で用意してください。
避難準備情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難をするのに時間のかかる避難行動要支援者は、避難を始めなければならない状況です。 ● 人的被害が発生する可能性が高まっている状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者、病人、障がい者の方は支援者とともに避難所へ早めの避難を始めてください。 ● 非常時持ち出しを用意するなどいつでも避難できるように準備してください。
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常の避難ができる方についても、避難を始めなければならない状況です。 ● 人的被害が発生する可能性がさらに高まっている状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所へすみやかに避難を始めてください。
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の前兆現象の発生や切迫した状況から、人的被害が発生する可能性が非常に高まっている状況、または実際に人的被害が発生した状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難中の方は確実に避難を完了してください。 ● いまだに避難していない方はただちに避難所へ避難を始めてください。 ● 避難の時間的な余裕がない場合は生命を守る最低限の行動をしてください。

避難勧告(指示)について

矢巾町では、町民の皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、避難勧告(指示)を発令し、皆さんに避難を促します。避難勧告(指示)を発令するときには、様々な状況を総合的に判断して発令しますが、判断の材料となるものの一部を次に示します。

大雨のとき

- 北上川上流洪水予報基準観測所において避難判断水位に達し、その後も降雨が継続し、更なる水位の増加が見込まれるとき。
- 避難判断水位が設定されていない河川については、水位情報や巡視・通報等により水位の増加が確認され、今後も雨が降り続いた場合に、氾濫のおそれがあると判断したとき。
- 溪流付近で斜面崩壊、斜面のはらみ、擁壁、道路にクラック等が発生するなど、土砂崩れの前兆現象が発見され、その後も降雨が継続すると見込まれるとき
- 河川(北上川・岩崎川)の水位情報は裏表紙に記載されているホームページから確認することができます。

地震のとき

- 大きな地震が発生したことに伴い、多くの家屋が損壊し、その後の余震により家屋倒壊のおそれがあるとき、または、火災が発生し大規模に延焼拡大するおそれがあるとき。

火災のとき

- 大規模に延焼拡大するおそれがあるとき。



風水害対策(1)

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんな協力しましょう。



大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

強風注意報・暴風警報

強風注意報:
平均風速が10m/sと予想される場合

暴風警報:
平均風速が20m/sと予想される場合

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。数十年に一度の災害が発生するおそれがある場合と予測される場合、特別警報が発表されることがあります。

大雨注意報

大雨により被害が発生するおそれがあると予測される場合。
・1時間に雨量が30mm以上

大雨警報

大雨により重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。
・1時間に雨量が50mm以上

雨の強さと降り方

	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。	

(1時間雨量:mm)

風の強さと吹き方

	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩かずに歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立っていない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。	

(平均風速:m/秒)

台風

- 日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
- 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い 猛烈な強さ	44m/s以上54m/s未満 54m/s以上

集中豪雨

- 集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
- 発生の予測は非常に困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！



地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。*矢巾町内には現在7箇所のアンダーパスが確認されています。

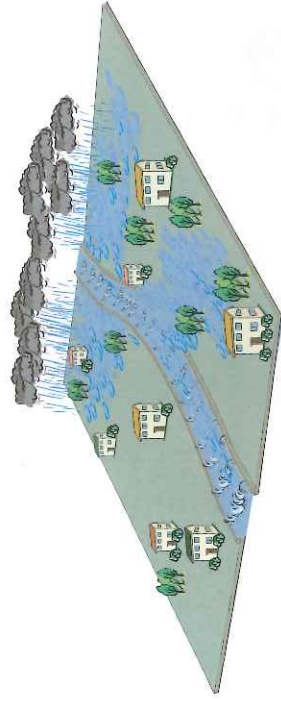
風水害対策(2)

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

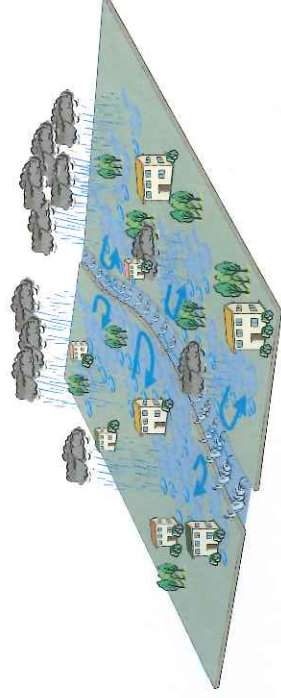
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておこる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはげきれずに溜まっておこる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

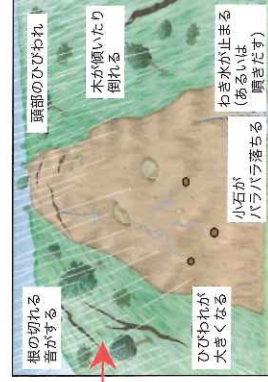


土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、町役場に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、大きな被害となります。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に大量の土の塊が移動するため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

洪水ハザード情報について

水防法に基づき、北上川の洪水ハザード情報をマップに掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1

説明

- この「矢巾町防災マップ」で使用しているハザード情報は、矢巾町に關係する河川(北上川・見前川・岩崎川・芋沢川・大白沢川・太田川)が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。浸水の目安は「浸水ランクの目安」でご確認ください。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深さとなったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。
- 浸水ランクの目安 想定した大雨の規模(2日間で226mm)

5.0m 以上の区域	2 階の屋根以上が浸水する程度
2.0~5.0m 未満の区域	2 階の軒下まで浸水する程度
1.0~2.0m 未満の区域	1 階の軒下まで浸水する程度
0.5~1.0m 未満の区域	大人の顔までつかかる程度
0~0.5m 未満の区域	大人の膝までつかかる程度



2

洪水情報の種類

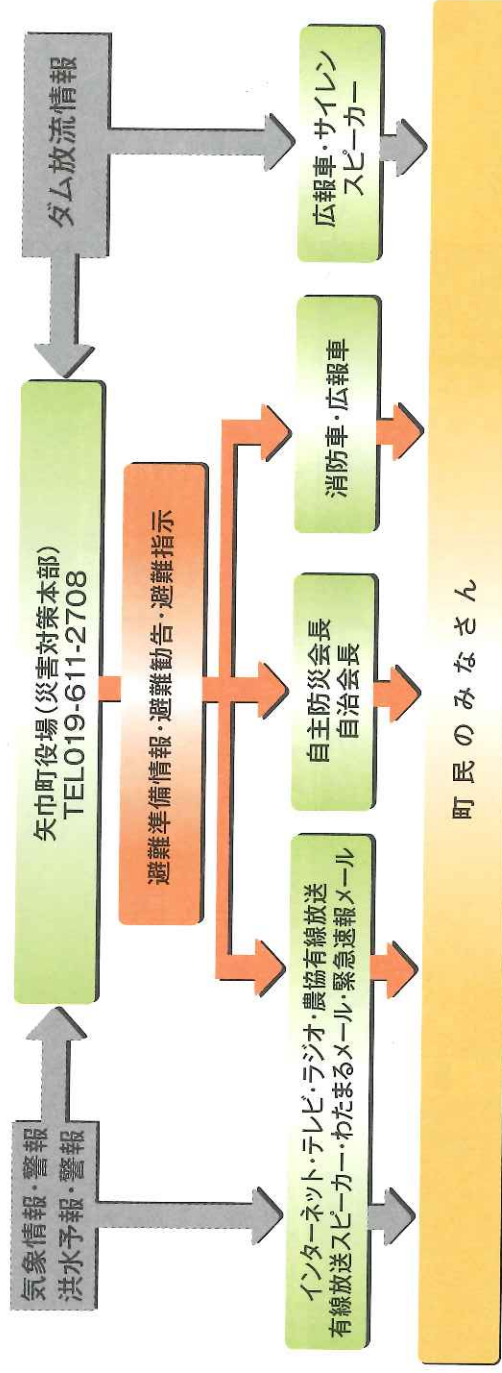
洪水の危険性が高まった際に発表される情報

- 洪水注意報(気象庁)**
 - 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、その旨を注意して行う。
- 洪水警報(気象庁)**
 - 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、その旨を警告して行う。
- 指定河川洪水予報など**
 - 北上川上流については、盛岡地方気象台の予測する降水量をもとに、河川を管理する岩手河川国道事務所が河川水位の危険度を予測し共同発表します。

3

洪水情報の伝達ルート

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。

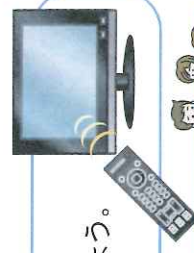


情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

大雨のときの行動ガイド

雨が降り続いていたら

テレビ・ラジオで最新の気象情報入手しましょう。



気象警報が発表されたら

重大な災害が発生する危険性が高まっています。川や急傾斜地には近づかないようにしましょう。



- 大雨の際に発表される気象警報等は「大雨警報」、「洪水警報」、「土砂災害警戒情報」があります。
- 数十年に一度の大雨のときは「大雨特別警報」が発表されるときがあります。

住んでいる地区に避難準備情報が発表されたら

避難勧告が発令される可能性があります。非常持出品を準備するなど、避難の準備をしてください。



- 避難準備情報は、避難勧告を発令する可能性のある地区に避難の準備を促すために発令します。
- 避難準備情報が発表されずに「避難勧告」が発令される場合もあります。

※避難に時間のかかる方(お年寄りや身体の不自由な方)は早めの避難開始を!

住んでいる地区に避難勧告が発令されたら

速やかに指定された避難場所へ非常持出品を持って避難してください。



- 避難勧告は、生命に危険が及ぶ可能性がある場合に発令します。
- 避難勧告は地区や避難場所を指定して発令します。
- 避難勧告より更に危険な状況では「避難指示」が発令される場合もあります。

※道路が冠水するなどして、避難場所へ向かうことが危険な場合は、自宅の2階など、できるだけ高いところへ屋内待避します。

避難時の注意点

①安全で動きやすい服装を

- ・ヘルメットやずきん等で頭を保護する。
- ・裸足で避難しない。脱げにくい運動靴で避難する。

※長靴は水が溜まると動きにくくなるのではない!

②足元に注意

- ・水の深さに注意する。
- ※歩行可能な水深は一般的に男性70cm、女性50cm。水の流れが速い場合はさらに注意が必要!

- ・水があふれたときは、マンホールや側溝、石などが危険。杖や長い棒で進行方向を確認しながら歩くようにしましょう。

③隣近所で声を掛けあって避難

- ・単独行動はしない。
- ・はぐれないようロープで互いの体を結んで流されないようにしましょう。

④要配慮者の安全確保

- ・病人や高齢者は背負って避難する。
- ・子供は大人が手をつないで避難させる。その際、浮き袋を付けるようにしましょう。

地震対策 地震発生!そんなときどうする

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- すぐに火を消せるときは火を消す
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意

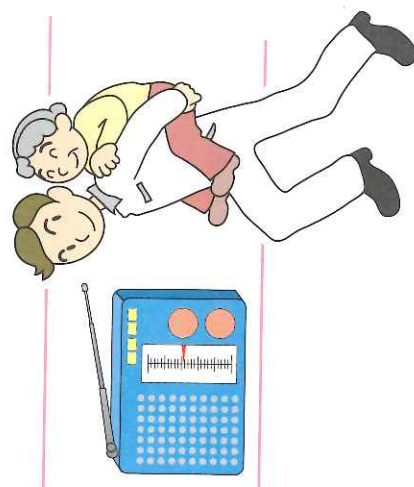


みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう ● 要配慮者の安全確保 ● 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか ● 行方不明者はいないか ● ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火 ● 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を開める ● 消火器を使う ● バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせ ● 災害・被害情報の収集
- デマにまどわされないように ● 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する ● 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 救出・救護活動 ● 無理な行動はやめよう
- 助け合いの心が大切 ● 壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガス元栓の元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウやショーケースなどから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従う。あわてずに冷静な行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を歩かず避難する。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭を力パンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に近づかない。



車を運転中

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェックVしましょう。

1

- 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつかある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



2

- 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

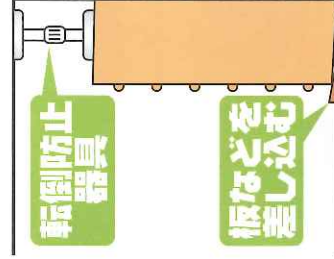
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる危険性がある。



3

- 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかると固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4

- 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

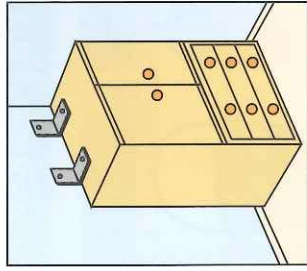
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くとき、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

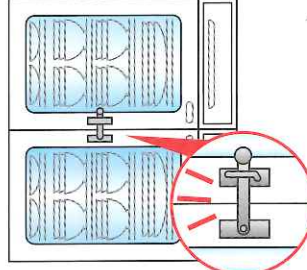
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



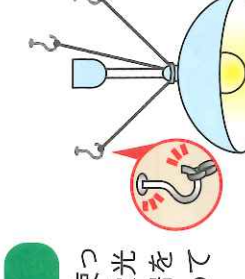
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふすまなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



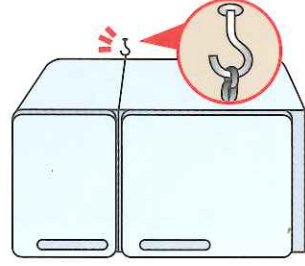
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



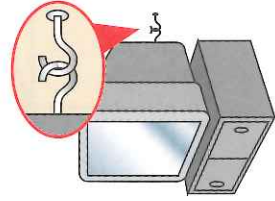
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



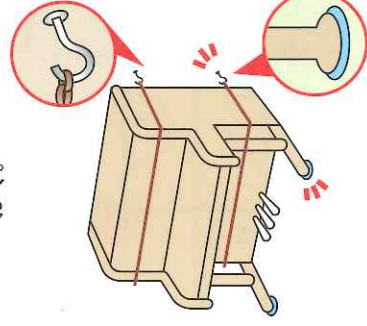
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさげる)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェックVしましょう。

屋根

- 不安定な屋根のアンテナや、屋根がわらはは補強しておく。

ベランダ

- 植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

- 飛散防止フィルムをはる。

ブロック塀・門柱

- 土中につきりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

プロパンガス

- ボンベを鎖で固定しておく。



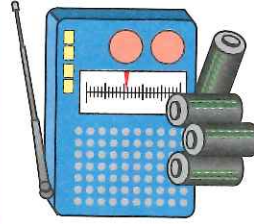
非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

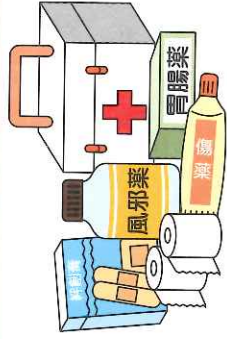
事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



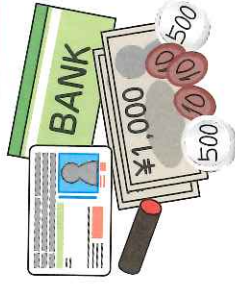
- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



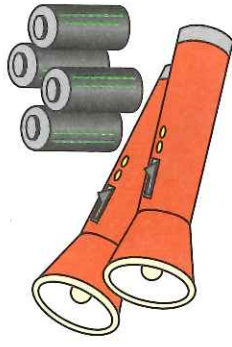
- 持病薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 預金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



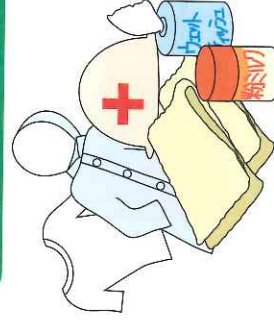
- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品



- 火を通さずに食べられるもの、食器など
- カンパン
 - 缶詰
 - 非常用食品
 - ミネラルウォーター
 - 缶切り
 - 栓抜き
 - 紙皿
 - 紙コップ
 - 水筒

その他

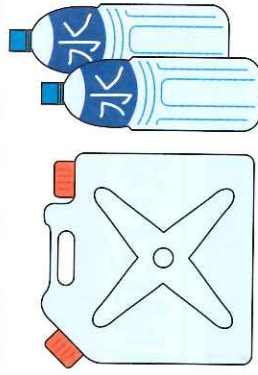


- 衣類(下着・上着など)
- タオル
- 生理用品
- 粉ミルク
- 離乳食
- 紙おむつ
- ウエットティッシュ
- 雨具
- ヘルメット
- ライター
- ラップフィルム
- 防災マップ(本書)
- (止血や食器にかぶせて使う)
- 防寒具(時季による)

非常時準備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



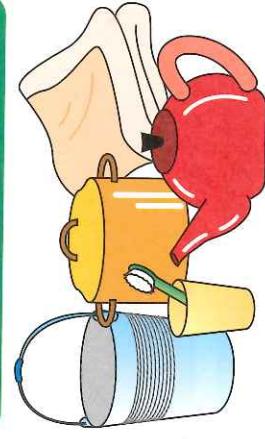
- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したポリタンクなど

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具
- ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的な点検を!

避難生活が長引くときに便利なもの

阪神・淡路大震災で役に立ったもの



携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、ボールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は事前にチェックし、賞味期限が過ぎたものから順に入れ替えておきましょう。

わが家の「防災・緊急情報」メモ



非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

世帯主氏名	電話
住所	

避難場所	
<small>家族が離ればなれになった時の避難場所</small>	

氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ

家族構成
連絡先

氏名	血液型	持病・アレルギー	持病薬	かかりつけ医療機関

【メモ】 ※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

家族の
緊急情報・
救急メモ

氏名	間柄	電話	住所	メモ

緊急時
連絡先